

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立桑名北高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	生徒と共に創る教育活動をとおして、地域に信頼される北高	
(2)	育みたい生徒像	① 社会人として、適切に意思疎通を図る力と良い習慣を身に付けた北高生 ② 主体的に学び続ける姿勢と力を養い、地域や社会に貢献できる北高生 ③ 本校で育成すべき資質・能力である「7つの力」(以下)を身に付けた北高生 ①聴く力 ②話す力 ③書く力 ④読み取る力 ⑤考える力 ⑥前に踏み出す力 ⑦協働する力
	ありたい教職員像	① 「主体的・対話的で深い学び」を心がけ、授業改善に熱心に取り組む教職員 ② 夢や希望する進路が保障できるよう、様々なデータの分析結果を共有し、「キャリア教育」に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	① 生徒 「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業と、「朝の学習の時間」等の取組により、学力が身につけていることを実感し、充実した高校生活を送ることができる。 ② 保護者(各家庭、PTA) 安全・安心に高校生活を送ることができるとともに、希望する進路が実現できるよう、学習活動やキャリア教育が充実している。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	① 保護者 ○ 安全・安心な学校 ○ 学力向上・進路保障が実現できる学校	① 保護者 ○ 教育活動への参画、家庭教育の充実 ○ 親子の豊かなコミュニケーション
	② 地域住民(自治会) ○ 地域の青少年の模範となる生徒 ○ ボランティア活動、防災等での地域連携	② 地域住民(自治会) ○ 学校教育活動への支援と理解
	③ 中学校 ○ 学力・体力の向上、部活動の充実 ○ 進路の保障 ○ 多様な生徒への対応	③ 中学校 ○ 緊密な中高の連携と相互理解 ○ 本校の特色や取組の中学生への紹介
	④ 事業所、NPO ○ マナー、コミュニケーション力の育成 ○ 基礎学力の定着 ○ 忍耐力の育成	④ 事業所、NPO ○ キャリア教育充実のための連携強化(例:インターンシップ) ○ 求人数の増加

<p>(3) 前年度の学校関係者評価など</p>	<p>① 2年間の国事業の成果としてとりまとめた、生徒と「共に創る」学習活動の手引き＝「桑北スタンダード」について、作成したものをいかに「活用」し、継続した授業改善をしていけるかが今後、問われる改善課題となる。</p> <p>② 人権意識尊重の取組、教育相談の充実、特別支援教育の体制整備のさらなる充実を踏まえて、「生徒同士の関係性を支援する仕組み」の再構築が改善課題となる。</p> <p>③ 県内外の学校から視察を受けるなど、大きな成果を収めているキャリア教育について、進路決定以後、卒業までの間に、いかに社会人として必要な力を継続して身につけさせ、送り出せるかが大きな課題となっている。</p> <p>④ 学力向上の取組については、研究成果の生徒との共有、年度当初のマインドセットが重要であり、育成すべき資質・能力「7つの力」を生徒と教員が共有する仕組みが必要である。今年度作成した「桑北スタンダード」の40の項目の「生徒版」を作成するなどの展開も期待したい。また、学力の中身を吟味して、引き続き、生徒の成長を支援する継続的な姿勢を期待したい。</p> <p>⑤ 様々な特色ある教育活動を展開してもらっているが、生徒の学習活動の背景にある生活習慣について、生徒同士が支え合い、ポジティブな関わりを育成する「ピア・サポート」のような取組が残された取組と感じる。人権意識を高める営みも継続されたい。</p> <p>⑥ これまでの授業力向上、教師力向上の取組は特筆すべき内容であり、本校の強みでもあるので、継続して研鑽を図られるとともに、事業成果の「高大連携」についても活用されたい。大災害が起きたときに拠点施設となる可能性もあり、引き続き防災意識の向上を図られたい。</p>
<p>(4) 現状と課題</p> <p>教育活動</p>	<p>① <b>【学力の定着と向上】</b>        ・国事業の実践を重ねながら、教職員がお互いの授業を見学しあい、授業研究に取り組むことができた。生徒の学力もDゾーンからCゾーンがボリュームゾーンとなり、一層の組織的な授業研究が課題となった。  <b>※桑北スタンダードの活用</b>…2年間の国事業の成果としてとりまとめた、生徒と「共に創る」学習活動の手引き＝「桑北スタンダード」を「活用」し、年度初めの説明会等で、本校で身につける資質・能力(7つの力)を生徒とともに共有、マインドセットし教育活動に取り組む。</p> <p>② <b>【キャリア教育の推進】</b>        ・この3年間の集大成として、平成30年度キャリア教育文部科学大臣表彰を得た。キャリア教育の営みを継続するとともに好調な就職実績のノウハウを進学指導にも反映させていくことが必要である。  <b>※キャリア教育の充実</b>…キャリア教育について、これまでの教育活動の成果を踏まえて、さらに探究的な学びの充実のために、「高大連携」を活用した営みを構築する。</p> <p>③ <b>【生活習慣の確立】</b>        ・県内初の「自転車免許」の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できたが、家庭学習の定着が課題である。</p> <p>④ <b>【安全・安心の学校づくり】</b>・日常のケース会議の実施に加えて、外部の専門家と連携した教育相談等、インクルーシブ教育の推進と人権感覚あふれる学校づくりを推進できたが、「情報共有」の時間の確保が大きな課題である。  <b>※生徒同士の関係性支援</b>…人権意識尊重の取組、教育相談の充実、特別支援教育の体制整備のさらなる充実を踏まえ、「生徒同士の関係性を支援する仕組み」の再構築を行う。</p>

学校運営など	<p>① <b>【円滑で戦略的な組織運営】</b> ・企画(戦略)委員会において、様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティング等や主任等打ち合わせで円滑で戦略的な組織運営を図れたが、会議の多さが課題である。</p> <p>② <b>【指導力の向上につなげる研修の推進】</b> ・国事業を活用した学力向上と授業改善に係る研修を複数回実施できたが、実際の授業に活用できる実効性が課題。</p> <p>③ <b>【開かれた学校づくりの推進】</b> ・学校関係者評価委員会や学力向上推進協議会等外部の有識者の声を聴く機会が多かったため、継続していく。</p> <p>④ <b>【働き方改革の実効性の向上】</b> ・部活休業日の設定や休暇取得は実現できたが、研修も含めた会議時間や回数の削減に大きな課題が残った。 ※働き方改革…、定時退校については、かなり実施されるようになったが、様々な取組を実施する中で、会議回数や時間については改善が見られなかった。次年度に向けて、導入された機械警備等の仕組みをさらに活かし、継続して学校運営に取り組む。</p>
--------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>① <b>【学力の定着と向上】</b> ・国事業「平成30年度「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(高等学校)」の成果の実践。</p> <p>② <b>【キャリア教育の推進】</b> ・好調な就職実績の継続とそのノウハウの進学指導への反映。</p> <p>③ <b>【生活習慣の確立】</b> ・丁寧で粘り強い生徒指導の継続と家庭学習の定着。生徒の参画による活動推進。</p> <p>④ <b>【安全・安心の学校づくり】</b> ・学校周辺の立地等特徴を踏まえた安全教育の推進と危機管理体制の強化。</p>
学校運営など	<p>① <b>【円滑で戦略的な組織運営】</b> ・必要な会議の精選と日常的な情報共有の確保、新教育課程への準備の加速。</p> <p>② <b>【指導力の向上につなげる研修の推進】</b> ・国事業を活用した学力向上と授業改善に係る「桑北スタンダード」の活用。</p> <p>③ <b>【開かれた学校づくりの推進】</b> ・学校教育活動の地域等への発信、学校紹介動画等での啓発。</p> <p>④ <b>【働き方改革の実効性の向上】</b> ・研修も含めた会議時間や回数の削減の実行。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

略称について

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。…【活標】と略します。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果などを指標にします。…【成標】と略します。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

【その他の略表記について】 本校の総合的な探究の時間を“みらい”といいます。…“みらい”と略します。

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 学力の定着と向上	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長</p> <p><b>【活標】</b></p> <p>①基礎力診断テストや実力診断テスト、朝学を通して基礎学力の定着を図る。</p> <p>②各教科において発展課題や追加課題を準備し、進度の差に対応する。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>①基礎力診断テストの評価でD3の人数を10人以下、学年評価C以上。</p> <p>②学力上位層や進学希望者をピックアップし、次年度カレッジクラス希望者を40名確保。</p>	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①D3生徒数について 第1回D3該当が40人いたものの第3回は30人まで減少した。朝学を通して基礎学力の育成を図り、一定程度成果を収めることができたが目標達成はできなかった。</p> <p>②カレッジクラス編成40名を確保することができた。個人面談を通じた丁寧な進路指導を行い目標を達成できた。</p>	◎          ※

	<p><b>【2学年】</b></p> <p>①基礎的・基本的な学力の定着をはかる。  <b>【活標】</b>朝学や授業を通じて、各コースに応じて進学・就職に必要な基礎・基本的な学力の定着を図る取り組みを行う。さらに、カレッジクラスはより発展的な学習内容に取り組み、進学に必要な学力をつける。  <b>【成標】</b>  ①学年全体で基礎力診断テストの評価D3の人数を20名以下、学年評価C以上を目指す。カレッジクラスはD3を0名、クラス評価C1以上を目指す。  (書く力、考える力、読み取る力、前に踏み出す力の育成)  ②朝学の充実を図る。(学年会で相談しながら)  (聴く力、書く力、考える力の育成)  ③週末課題に毎週取り組む。(国数英を中心に)  (書く力、考える力、前に踏み出す力の育成)</p> <p><b>【3学年】</b></p> <p>①「わかる」授業の実現 ②基礎学力の定着 ③生徒全体の学力の伸長  <b>【活標】</b>ベネッセ「基礎力診断テスト」によって、生徒の学力状況を分析、授業に反映させる。基礎力のみではなく、学力の伸長を見せる生徒にも、それぞれにあわせた授業をおこなう。  <b>【成標】</b>「基礎力診断テスト」の評価で、「D3」の生徒がゼロ。また、学年の評価が前回の「C3-」より上昇している。</p> <p><b>【教務総務部】</b></p> <p>①生徒が主体的に学び合う学習の場をつくる。  <b>【活標】</b>授業毎にペアワークやグループワークなどを組み込み、「主体的・対話的で深い学び」の構築に積極的に取り組む。  <b>【成標】</b>生徒アンケートで、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていることに対する肯定的な回答→70%以上  ②わかる授業を実現する。  <b>【活標】</b>ICTの活用やユニバーサルデザインの授業づくり等の基礎的環境整備と合理的配慮などにより、わかる授業への改善をすすめる。  <b>【成標】</b>生徒アンケートで、「授業がわかる」の回答→75%以上  ④ オンライン授業の円滑な運用に努める。  <b>【活標】</b>オンライン授業プロジェクトチームと連携し、すぐに使用できる機材を活用しながら環境を整える。  <b>【成標】</b>Google Classroom への生徒参加率→90%以上</p> <p><b>【進路指導部】</b>  基礎力診断テストおよび実力診断テストの外部ツールを軸として、生徒の学力把握と学力伸長をはかる。  ①基礎学力の向上について組織的に取り組む  <b>【活標】</b>基礎力診断テストで各学年の平均値C段階以上  <b>【成標】</b>D3を各学年・各回ともに1割以下  ②学力伸長と新入試対応のために課外授業を充実させる  <b>【活標】</b>全学年に放課後課外を企画・実施  <b>【成標】</b>課外授業の参加者のべ80人以上</p>	<p><b>【2学年】</b></p> <p>①9月実施の第2回基礎力診断テストで、D3が12人(カレッジクラス0人)、学年評価はC3+(カレッジクラスはC1+)となっており、Cゾーンの評価になっている。どちらも目標を達成することができた。  ②毎回の学年会で、それぞれの時期に応じた課題を相談し、問題作成をすることができた。3教科の基礎的な問題だけでなく、新聞のコラムを読んで感想を書くものや、SPI対策問題など、進路を意識した課題を行うことができた。  ③毎回の学年会で相談し、学年外の他教科の先生方にも協力いただき、その週に学習した内容を中心に週末課題を作成し、翌週月曜日に答え合わせをさせて提出する形を作ることができた。提出していない生徒は一部いるが、取り組み状況は良好である。</p> <p><b>【3学年】</b></p> <p>①生徒への学年アンケート「授業がわかる」に肯定的に答えた生徒が82%。  ②9月開催「基礎力診断テスト」で「D3」数が27人。  ③1・2学期、夏休みに、就職志望者進学志望者ともに独自の学力テストを行い、基礎学力の底上げをはかった。</p> <p><b>【教務総務部】</b></p> <p>①生徒の実態調査アンケートより「あなたは、ペアワーク・グループワークに参加できていますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」85.5%⇒達成できた。  ②同アンケートより「あなたは、ペアワーク・グループワークを通して、学力が身についたと思いますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」77.9%⇒達成できた。  ③同アンケートより「桑名北高校の先生は、わかりやすい授業のための工夫をしていると思いますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」91.3%  「あなたは、桑名北高校で授業を受けて『わかる!』が増えてきたと感じていますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」82.8%⇒達成できた。  ④生徒一人ひとりにアカウントを発行し、オンライン授業・オンラインHR等に活用できた。  ⇒参加率平均92.1%概ね達成できた。</p> <p><b>【進路指導部】</b></p> <p>①基礎学力の向上と定着については一定の成果を残すことができた。直近の受験回で、1年生のD3は12%、2年生のD3は6%、3年生は14%となった。  ②課外授業は2年生のべ112名、3年生のべ126名が受講し、多くの希望者が受講した。</p>	<p>◎※</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>※◎</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>◎</p>
--	---	---	---

《各教科の目標》 昨年度作成した「桑北スタンダード」を活用した授業を行う

【国語】

・「多様な生徒に配慮しながらグループワーク等を取り入れ、主体的に思考し学び合う機会を増やす。また、漢字検定の資格取得を奨励し、学力の高い生徒には発展的な問題を勧めていく。(7つの力の考える力・読み取る力・書く力に特に注力する。)」

【英語】

・英語を「読む・書く・聴く・話す」の4つの技能をバランスよく学習できるような授業とする。基礎的な内容を繰り返し指導し学力の定着を図るとともに、学習の仕方を身につけ主体的な学習に結びつくよう指導する。また、アクティブラーニングを通して協働的な学習を多く取り入れる。

【数学】

・ペアワーク・グループワーク等の共同学習を通じて話す力、書く力、考える力、協働する力を養わせる。  
・教員の教授内容は最低限とし、活動を中心とした授業を展開する。  
・週末課題や週1回の小テストなどを通じて、既習の学習内容のより深い定着を目指す。

【社会】

・生徒の考える力を育むことを目指して授業を行う。どの科目においても一コマにつき一回は必ず生徒が考える発問やワークを取り入れ、教師主体の授業でなく生徒とともに考えられるような工夫を行い、生徒の考える力を養う。

【理科】

・可能な限り、実物の資料やICTを使用し、生徒がイメージしやすい授業を心がける。仲間とともに課題や実験に取り組み、協力して課題を解決する力を養う。

【保健体育】

・体育と保健の関連性を意識しながら、生涯を通して健康に生きるための知識、見方・考え方を学ばせる。  
・個々の課題に対して、他者と関わり合いながら協力して解決する力を養う。

【芸術】

・主体的に学び続ける姿勢と力を養うため、基礎の反復練習、鑑賞の学習、生徒相互の学び合いを取り入れて授業展開をする。

【家庭】

・実習においてアドバイザー制を用い、教え合う機会を持たせる。アドバイザーになる機会を全員に与え、上手に教え合いができていないグループには教員が言葉がけを行う。相手の話を聞く態度やわかるように伝える努力により、協働する力を育成し、知識・技術の定着につなげる。  
・共有で使用する道具、個人の作品材料など、物の管理を徹底させる。

【商業】

・簿記については、ビジネスに関する実務との関連性を認識させる。情報処理については、情報を収集・処理・分析し表現する一連の諸活動において情報を活用する能力・態度を養う。

【情報】

・ICT機器を活用し、自分の考えや体験をクラス全員の前で発表することにより、自己発信能力や自己肯定感・コミュニケーション力を高める授業展開に取り組む。

【国語】

◎  
適宜ペアワーク、グループワークを実施し、深い学びにつながれた。また、漢字検定の受検者数を昨年 82 人から今年 152 人と昨年対比 185%とすることができた。さらに希望生徒に向け課外を実施し学力向上に努めた。7つの力についても Stepup シートでアンケートを実施する予定である。よって概ね達成できている。

【英語】

概ね達成することができた。密接を避けるため協働的な学習は控えた。

【数学】

コロナウィルス感染対策の関係で密接を避けるため、協働的な学習は昨年よりは控えた。そのかわりに思考力をとうような問題を設けることで、生徒それぞれが考える時間を作ることができた。習熟度によって多少の差はあるが、生徒主体の授業展開ができた。單元ごとで小テストを行うことにより、学習内容の定着につながった。

【社会】

どの科目においても、授業の最後で「Key Question」や「考えてみよう」を設けることで、生徒それぞれが考える時間を作ることができた。また、グループワークも積極的に取り入れた授業を行うことができた。

【理科】

新たに導入されたプロジェクタとマグネットスクリーンにより、実験やシミュレーションの映像を見せることができるようになり、生徒とイメージを共有しやすくなった。

【保健体育】

目標を設定し、授業や指導の方法を工夫することで達成できた。・コロナウィルス感染症のこともあり、グループワークやペアワークを取り入れる際は人数や間隔、形態に注意しながら行い、目標を達成することができた。

【芸術】

新型コロナウイルス対策のために生徒相互の学び合いは、充分取り組むことができなかったが、それ以外は主旨達成することができた。

【家庭】

コロナウィルス感染予防からアドバイザー制を実施することができなかった。道具など物の管理の徹底については概ね達成させることができた。

【商業】

概ね目標を達成することができた。

【情報】

概ね目標を達成することができた。

	<p><b>【ヒューマン】(学校設定教科)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク・保育園児との継続的交流を通して、自他への理解を深め、粘り強く人と関わる力を育てる。</li> <li>・ふりかえりによる気づきの明確化と定着、学びの共有を図る。</li> </ul>	<p><b>【ヒューマン】(学校設定教科)</b></p> <p>コロナ禍で交流のスタートが遅れ、回数が減ったからこそ、その都度、交流にこだわりを持って取り組むことができた。また、交流の気づきを明確化し、他者との共有を経て学びが深まるよう、毎交流後に振り返りシートを書き、次回までに意見を集約し、配布、共有することができた。さらに自他への理解を深めるために、園児との交流、各ワークはもちろんのこと、高大連携の取り組みとして短大、専門の先生方にも講義いただいた。</p>	
<p><b>重点②</b> キャリア教育の推進</p>	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①7つの力を意識したキャリア教育②挨拶の行き交う学年</p> <p><b>【活標】</b></p> <p>①「みらい」の授業ごとに自分に身についた力を振り返り、ふりかえりシートで積み上げていく。インターンシップと探求の連動。</p> <p>②教員・生徒の双方向の挨拶を積極的に行う。挨拶は桑北の光。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>①1学年終了時に、各生徒が「みらい」で身についたと実感できる力を、7つの力の中から3つピックアップ。</p> <p>②生徒アンケートで「挨拶ができた」の回答80%以上。</p> <p><b>【2学年】</b></p> <p>各コースに応じて必要なキャリア教育を行う。</p> <p><b>【活標】</b>各コースに応じたキャリア教育を、朝学や総合的な探究の時間を使って指導する。また、進路指導部と協力して、様々な体験活動や講話を通じて、それぞれの進路意識をつけさせる。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>①朝学の中で、キャリア教育について学べる教材を扱う。 (書く力、聴く力、考える力、読み取る力を育成する)</p> <p>②ワークを活用した学びと、SDGsの理念を絡めて各自(各班)のテーマ設定をし、それについての調べ学習の成果を発表させることにより、総合的な探究の時間の総仕上げを目指す。(7つの力すべての育成)</p> <p>③カレッジクラスを中心に実力診断テスト等を活用した進学指導や学習指導を行う。</p> <p><b>【3学年】</b></p> <p>① みらいでのグループワーク等をとおして、ソーシャルスキルの向上に努める。</p> <p>②みらいでの進路講演などで、卒業後の自身の進路について意識を高める。</p> <p><b>【活標】</b>グループワーク等を取り入れ、進路に向けての面接練習に外部企業の方を交えて、生徒の社会性を育む。外部団体の検査等を利用して、自己分析を行う。</p> <p><b>【成標】</b>進路決定率 100%</p> <p><b>【進路指導部】</b></p> <p>「みらい」を生徒の成長段階に応じて計画的かつ効果的に実施し、キャリア形成を促しつつ進路意識の向上を図る。新型コロナウイルス対応による休校措置や指導機会の減少にも対応し得るよう、状況に応じて企画を精選・再構築して弾力的に実施する。</p> <p>①年間計画に基づく効果的なキャリア教育の推進</p>	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①各生徒が毎時ふりかえりを行い、身についた力を実感できた。</p> <p>②生徒実態調査アンケートの「挨拶ができた」に「かなりそう思う」「そう思う」の回答 92.6%→達成</p> <p><b>【2学年】</b></p> <p>①前述したが、新聞のコラムを読み意見を書く課題やSPI問題を行うことで、進路を意識した朝学を入れることができた。</p> <p>②休校期間があったのでワークをする時間が限られる中で、SDGsの意味やその役割について学習し、自分たちの将来の進路(職業)について興味のあるものからSDGsにつなげ発表することができた。その発表については四日市大学の先生方にも入っていただき、助言をいただきながら進めることができた。</p> <p>③コロナ禍で本来受験するテストが1回しか実施できず、現在はその結果を用いて3学期の進路指導につなげる計画を担任を中心に計画中である。</p> <p><b>【3学年】</b></p> <p>①卒業後の進路を考える活動に、グループワークを取り入れた。生徒への学年アンケートで、「自分の意見を周りに伝えることができる」に肯定的に答えた生徒が52%。</p> <p>②「面接練習」を綿密におこない、また各種講演会で、卒業後の自分、社会に出る自分をなるべく具体的にイメージできるよう指導を行うことができた。</p> <p><b>【進路指導部】</b></p> <p>「みらい」はコロナ対応のため、当初計画を修正・変更して実施。「7つの力」を意識した取組を実施。</p> <p>①生徒アンケートは3月に実施予定。早期離職は令和元年度卒業生で5%</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>

	<p><b>【活標】</b>中・小PDCAサイクルを活かしたキャリア教育の実施</p> <p><b>【成標】</b>生徒アンケートによる満足度90%以上 昨年度卒業生の早期離職率10%以下</p> <p><b>②各学年との連携</b></p> <p><b>【活標】</b> 進路指導部の「みらい」担当と学年との打ち合わせを密にする</p> <p><b>【成標】</b> 学年会議で「みらい」打ち合わせ100%実施 学級担任からの企画についての評価回収100%</p> <p><b>【生徒指導部】</b></p> <p><b>① 挨拶が行き交う学校づくりを行う。</b></p> <p><b>【活標】</b>「挨拶は桑北の光」という標語を用いて、挨拶が行き交う雰囲気をつくる。</p> <p><b>【成標】</b>生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答→80%以上</p> <p><b>② MS(マナースピリット)活動によって生徒の自主性を引き出す。</b></p> <p><b>【活標】</b>MS 活動(朝の挨拶運動、地域の美化活動)により、生徒が自主性をもち、充実感のある高校生活を送れるように努める。</p> <p><b>【成標】</b>MS 活動の回数→2回以上 参加人数→80以上(部活動生徒以外の参加を増やす)</p> <p><b>③ 身だしなみ・頭髪の指導を行う。</b></p> <p><b>【活標】</b>各学期に2回の「頭髪・服装指導」と日々の校門指導を基本とし、全職員が同じ目線で指導していきたい。</p> <p><b>【成標】</b>生徒実態調査アンケートの生徒指導に対する回答→「不十分」が10%未満</p>	<p>②みらい担当者と学年と連絡を密に取り、工夫して実施。打ち合わせ・アンケートの回収ともに 100%</p> <p><b>【生徒指導部】</b></p> <p>①「挨拶ができた」の回答が 92.6%であり、目標を達成できた。挨拶を日常的に行う雰囲気が出てきている。</p> <p>②MS 活動の回数は悪天候もあり 1 回のみの実施となり、目標は達成できなかった。参加人数 149 名であり、目標は大幅に達成できた。</p> <p>③定期的な頭髪・服装指導を行い、個別の生徒の対応も行っているが「不十分」の回答が 30.1%であり、達成できなかった。全職員での指導を図りたい。</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p>
<p><b>重点③</b> <b>生活習慣の確立</b></p>	<p><b>【1 学年】</b></p> <p><b>①遅刻・欠席数の減少 ②身だしなみの徹底</b></p> <p><b>【活標】</b></p> <p>①朝学に計画的に取り組む。遅刻生徒としっかりと対話し、その家庭と連携する。</p> <p>②服装・頭髪について予防と対応を使い分け、身だしなみを整えることの意義を伝える。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>①学年遅刻数の昨年度比減。</p> <p>②各頭髪服装指導の該当者、各クラス3名以下。</p> <p><b>【2 学年】</b></p> <p><b>良い習慣、良い雰囲気を作り出す。</b></p> <p><b>【活標】</b>遅刻、欠席の数を減らし、安心して学校に登校できる雰囲気を作る。積極的にグループワーク等を活用し、生徒自ら主体的に授業や学校行事に参加する雰囲気作りを行う。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>①遅刻・欠席数を昨年度比減にする。</p> <p>②人権LHRや各授業において、積極的にグループワーク等の生徒参加型の授業を行うように各教科に声かけをしていく。 (聴く力、話す力、考える力、前に踏み出す力、協働する力の育成)</p>	<p><b>【1 学年】</b></p> <p>①昨年度遅刻数は対比約 30%減であり目標を達成できた。</p> <p>②服装、頭髪をはじめ身だしなみを整える指導は年間を通して適切に行うことができた。</p> <p><b>【2 学年】</b></p> <p>①欠席数についてはコロナ禍であるので、単純比較することは難しい。遅刻数に関してはすべての月において前年より微増となり、目標を達成することはできなかった。コロナ禍で難しいところはあるが、基本的な生活習慣については学年集会等や学年通信で生徒・保護者に伝えるなどして引き続き指導していきたい。</p> <p>②コロナ禍ではあるので、密になる環境等を避けながら、各教科で工夫してもらうことや、人権学習等でも例年よりも少ない人数でワークを行うなどの対策を取りながら、協働して学習を進めることができた。</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>

	<p><b>【3学年】</b>  ①学習習慣が確立されている。  ②基本的な生活習慣がしっかりと身につけており、自分の将来のための落ち着いた生活ができる。  ③基本的なあいさつができ、他者と良好な共同生活をおくることができる。  <b>【活標】</b>「朝学」をそれぞれの希望進路ごとに設定し、毎日おこなう。  <b>【成標】</b>生徒アンケートで、「朝学に取り組むことができた」に肯定的な回答が80%以上。また、学校遅刻の数が前年度より減少している。</p> <p><b>【保健部】</b>  ①自分を守るために、良い習慣を身に付ける指導、啓発を行う。特に新型コロナウイルス感染症を始めとする感染症について、予防啓発を重点的に行う。  <b>【活標】</b>全学年で朝食や睡眠、手洗いなど基本的な生活習慣の確立についての指導・啓発  <b>【成標】</b>  入学オリエンテーションで保護者、生徒に指導→1回ずつ健康管理に対する意識啓発→健康観察表の活用  保健便り、保健通信の発行→それぞれ年間10回以上、必要に応じて随時発行  掲示物の作成→年間5回以上  保健調査や健康診断結果による面談  来室時における個人指導などの実施</p> <p><b>【進路指導部】</b>  手帳の活用を促進し、メモをとる習慣と計画的に実行できる態度を育てる(※)  <b>【活標】</b>総合探究やSHR時に所持・活用を勧める。  <b>【成標】</b>生徒アンケートによる活用度調査60%以上</p> <p><b>【生徒指導部】</b>  ①時間を守ることを大切に、全生徒が遅刻せず一日の学校生活を有意義にスタートさせる。  <b>【活標】</b>遅刻指導(回数による段階的な指導)を遅刻数増加のはどめとする。  <b>【成標】</b>全学年の遅刻者率(※)→各学期・年間で3%以下  ※遅刻者率=遅刻者数/(在籍者数×授業日数)  ②計画的に月間目標を定め、習慣化にむけて生徒の自覚を促す。  <b>【活標】</b>時期に合った月間目標を定め、集会などで効果的に生徒に意図を伝える。  <b>【成標】</b>生徒アンケートで「月間目標」がまずまず達成できたと感じる回答→80%</p>	<p><b>【3学年】</b>  ①生徒への学年アンケート「朝学(朝読)に取り組んでいる」に肯定的に答えた生徒が41%。昨年度3学期より、希望進路別にテキストを導入し、テストを行った。  ②1日の始まりの時間を、静かに、授業に入りやすい環境として整備した。  ③生徒アンケートで「あいさつができる」に肯定的に答えた生徒が81%。「高校生活は充実している」に肯定的に答えた生徒が77%。</p> <p><b>【保健部】</b>  学期毎に定期的に校内放送で生徒に注意喚起を呼びかけをするなど意識向上に取り組んだ。  ①達成  ・感染症対策の啓発  保護者に1回実施、生徒対象に6回実施  ・健康観察表の管理  ・保健便り、保健通信  →13回  ・保健室前掲示→5回  ・個別面談・保健指導の実施</p> <p><b>【進路指導部】</b>  手帳の利用促進を図ったが、休校により初期指導がうまくいかなかった。  生徒アンケートは3月に実施予定。</p> <p><b>【生徒指導部】</b>  ①1学期の遅刻者率1.1%であり達成できた。2学期の遅刻者率2.1%であり達成できた。1・2学期を通して1.7%であり目標を達成できた。  ②「まずまずできた」の回答が57.2%であり、目標を達成できなかった</p>	<p>※ ◎ ◎ ※ ※ ◎ ※</p>
<p><b>重点④</b>  安全・安心の学校づくり</p>	<p><b>【1学年】</b>①いじめの積極的認知 ②家庭との連携 ③清潔な学習環境  <b>【活標】</b>  ①いじめに対する教員のアンテナを高くし、いじめの芽の段階から早期発見・早期対応を行う。そのための情報共有をこまめに行う。  ②学年通信の発行。対面及びオンラインでの面談実施。休校中の自習室開放。  ③HR教室・トイレの清掃を徹底する。掃除のないテスト期</p>	<p><b>【1学年】</b>  ①アンケートや日頃の様子から、いち早く生徒の思いを組むことができた。  ②学年通信10号まで発行予定であり、目標を達成できた。  ③毎日の清掃、清潔な学習環境を保つことができた。</p>	<p>◎</p>



	<p>間等も教員が環境整備を行う。</p> <p><b>【成標】</b>  ①いじめの重大事態0件(いじめを積極的に認知する姿勢を持つ)。  ②学年通信の発行 年間10回以上。  ③毎日の清掃。</p> <p><b>【2 学年】</b>  <b>担任団・学年団がコミュニケーションを取り、生徒の実態把握を行う。</b>  <b>【活標】</b>生徒の雰囲気や反応をしっかりと読み取り、生徒の実態把握を行う。今年度は、各コースにリーダを作り、各コースの実態把握、課題発見、情報共有をより円滑に進めていく。  <b>【成標】</b>  ①年間に20回以上の学年会を行う。各コースの情報共有を行う。  ②状況に応じて、積極的に生徒本人や保護者との連絡を密に取る。</p> <p><b>【3学年】</b>  ①担任間の生徒情報共有を密にする。  ②家庭と学校との連携を深める。  <b>【活標】</b>学年会をおこない、情報共有をする。また「学年通信」を発行し、各家庭への情報発信をする。  <b>【成標】</b>ほぼ毎週、学年会をおこなう。ほぼ毎月、「学年通信」を発行する。</p> <p><b>【教務総務部】</b>  ①生徒一人ひとりの心を動かす人権教育を実施する。  <b>【活標】</b>全学年で人権 LHR、人権講演会をそれぞれ年 1 回実施する。  <b>【成標】</b>開催後の生徒アンケートで満足度80%以上  ②「障害者差別解消法」の視点から教育活動を点検・改善する。  <b>【活標】</b>合理的配慮が法的義務であることから、その実施状況について、1・2学期に各1回点検を行い、改善策を作成する。  <b>【成標】</b>1・2学期の点検と改善検討を学期毎に1回以上行う。</p> <p><b>【生徒指導部】</b>  ①交通ルール・マナーを遵守し、事故の被害者にも加害者にもならないよう指導する。  <b>【活標】</b>1 学年向けに自転車運転免許講習を実施し、交通事故防止に努める。  <b>【成標】</b>筆記試験を実施し、9割の生徒が80点以上取れるようにする。  ②いじめのない生徒関係の構築を行う。  <b>【活標】</b>いじめ防止講話を実施する。いじめアンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。  <b>【成標】</b>年 3 回、いじめアンケートを実施し、活用する。</p>	<p><b>【2 学年】</b>  ①40 回の学年会を行い、各クラスや各コースの状況把握や課題などを共有することができた。  ②特に今年はコロナ禍で家庭的にも精神的にも不安定な生徒に対して、個別での聞き取りや保護者への連絡を重ねることで、生徒の状況を把握し対処することができた。</p> <p><b>【3 学年】</b>  ①職員室での会話、月に 2 度の学年会で、担任間の情報共有、業務の検討ができた。  ②「学年通信」を 9 号発行し、学校での様子を伝えられるようにつとめた。また家庭とも頻りに連絡をとり、連携の深まりをはかった。</p> <p><b>【教務総務部】</b>  ①人権 LHR は以下のテーマで 2 回実施。  第 1 回(1 学年「新型コロナウイルス&lt;偏見やデマ・差別発言について考える&gt;/2 学年「平和学習」&lt;太平洋戦争・原子爆弾について&gt;/3 学年&lt;就職差別&gt;」第 2 回(「障がいて何?」  人権講演会は、11 月 25 日、恩田竜二さん(パラリンピック車いすフェンシング日本代表候補)を招き、「障がい者の生活とパラスポーツ」と題して実施した。開催後の生徒アンケートの満足度は 96%であり、目標を達成できた。  ②11 月に人権学習として障害者問題を扱った。学期ごとの点検は実施できなかった。</p> <p><b>【生徒指導部】</b>  コロナの影響により、自転車運転免許講習を実施できなかったため、筆記試験も実施できなかった。  いじめアンケートは、学期毎に3回実施した。  4 月にいじめ防止の講話を学年ごとに実施した。  11 月にピンクシャツ運動を実施し、全生徒にピンクのマスクを渡し、意識の向上に努めた。</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p>
--	--	--	--

	<p><b>【保健部】</b> ①生徒の問題行動に対する予防的な教育を積極的に推進する。</p> <p><b>【活標】</b> 1年生：養護教諭と保健体育科の連携による性教育やデートDVについての指導 2年生：健康診断の事前指導・事後指導による健康管理能力を高める教育 3年生：妊娠・出産についての性教育（外部講師を活用）</p> <p><b>【成標】</b> 各予防教育実施後の生徒アンケート満足度→各85%以上</p> <p>②新型コロナウイルス感染症に対する予防的措置を講じる。</p> <p><b>【成標】</b>手指消毒アルコール液・手洗い石鹸の設置、教室・廊下のドアノブ・手すり等共用部分の消毒、換気の徹底</p>	<p><b>【保健部】</b> ①達成 1年：性教育は休校措置により実施できなかった。7月実施のデートDVの講話については、91%が満足の結果となっており達成できた。</p> <p>2年：個別面談を実施した。</p> <p>3年：12月実施の性教育の講話については92%が満足の結果となっており、目標を達成できた。</p> <p>②手指消毒アルコール液・手洗い石鹸を常備するとともに、教室・廊下のドアノブ・手すり等共用部分の消毒をスクール・サポート・スタッフにより、毎月実施した。</p>	<p>◎</p> <p>※</p>
--	---	--	-------------------

(2) 学校運営など

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p><b>重点①</b> 円滑で戦略的な組織運営</p>	<p><b>【学校運営】</b>教育課題に対応するカリキュラムマネジメントを推進する。 「基礎力診断テスト」をメインにした学力定着の取組が奏功しており、また、「みらい」・LHR等によるキャリア教育の充実により、生徒の進路意識の向上が図られている。「コミュニケーション授業」も含めたこれら本校の特色あるフレームを継承・深化させ、学校のさらなる活性化につなげていく。 また、各種委員会を活性化させることで、学校の教育課題を解決していく視点でのカリキュラムマネジメントを行う。</p> <p><b>【活標】</b>「管理職」「学年＆生徒指導」「企画(戦略)委員会」「教育課程検討委員会」等を開催し、円滑で戦略的な組織運営を図る。</p> <p><b>【成標】</b>「学年＆生徒指導MT」毎週1回 「企画(戦略)委員会」毎月1回、「教育課程検討委員会」設置</p>	<p>「管理職」「学年＆生徒指導」会議は隔週で継続して実施し円滑な組織運営に努めた。</p> <p>「企画委員会」はほぼ月1回実施した。</p> <p>「教育課程検討委員会」は随時実施し、教育課程編成に向けて協議を重ねることができた。</p> <p>また、オンライン教育の委員会などを必要に応じて開催することができた。</p>	
<p><b>重点②</b> 指導力の向上につなげる研修の推進</p>	<p><b>【学校運営】</b> 学力の定着と授業力向上の重点化を図る。 落ち着きをみせている学校運営の中で、特に授業力の向上について、重点化して取り組む。</p> <p><b>【活標】</b>基礎学力の確実な定着に向けた学習・指導方法の開発及びPDCAサイクルの構築を図る。</p> <p><b>【成標】</b>年間2回以上の外部有識者による授業力向上のための研修</p> <p><b>【教務総務部】</b> <b>【活標】</b>テーマを設定した授業公開・授業研究を(年2回、各1週間、一人当たり2回以上の授業見学)を実施する。</p>	<p><b>【学校運営】</b> コロナの影響により、年間2回以上の外部有識者による授業力向上のための研修は実施できなかった。</p> <p><b>【教務総務部】</b> 授業力向上の取り組みに加え、休校中のオンライン授業や導入されたICT機器の活用例など、教員どうしの自主的な実践研修も増加した。</p>	<p>※</p> <p>◎</p>

	<p><b>【成標】</b>          ・一人当たり2回以上の授業見学の実施→75%以上          ・「主体的・対話的で深い学び」に関する評価について研究を行う。</p> <p><b>【学校運営】</b> 教職員の人権感覚やコンプライアンス感覚を高めるための研修を推進するとともに、日頃から管理職からの声かけを行う。</p> <p><b>【活標】</b> 人権とコンプライアンスに係る研修の実施          会議、面談等でのコンプライアンスに係る声かけ</p> <p><b>【成標】</b> それぞれの研修→年1回の実施</p> <p><b>【保健部】</b>          ①教職員のインクルーシブ教育に対する理解を深め、特別支援教育や教育相談の充実をめざす。  <b>【活標】</b> 合理的配慮の具体的な実施、校内外関係者における情報共有・連携により、生徒一人ひとりに丁寧に対応する。生徒のピア・サポートを進める土台として、生徒同士の関係づくりを図る。  <b>【成標】</b>          教職員研修会→年2回以上 全体・学年情報共有会→年3回以上          ②安全・安心の確保のため、非常時の対応力の強化を図る。  <b>【活標】</b> 全職員に向けて感染症予防に関する情報や対策の周知を図る。  <b>【成標】</b> 研修会や通信の発行→随時  <b>【活標】</b>          AEDの校内研修を実施し、全教職員が取り扱うことができる状況を確認する。  <b>【成標】</b>          年度内に常勤教職員の研修受講→100%</p>	<p>2学期に2回以上の授業見学を行った職員は91.4%であり目標を達成できた。</p> <p><b>【学校運営】</b>          コンプライアンス研修を1回実施するとともに、職員会議において管理職より周知を行った。また、中間面談を行い、個々に応じた声掛けを行った。          また、1月～2月にかけて人権研修を実施した。</p> <p><b>【保健部】</b>          ①校内外関係者における情報共有・連携を密にして、生徒一人ひとりに丁寧に対応し、生徒同士の関係づくりをサポートできた。          研修会を4月1日に実施した。8月の研修会はコロナの影響で中止となった。          全体・学年情報共有会は4月10日、4月20日、8月20日に実施したほか、随時、朝の職員打ち合わせで共有を図っている。</p> <p>②2月16日実施予定であったが、コロナの感染状況により消防署の判断で中止とした。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>※</p>
<p>重点③          開かれた学校づくりの推進</p>	<p><b>【学校運営】</b> 家庭・地域連携の強化と教育活動の地域発信を図る。  <b>【活標】</b> 学校実態調査アンケートの実施と分析  <b>【成標】</b> 9月の職員会議で定点分析報告  <b>【活標】</b> HP、絆ネット、アプリ「私の学校」を活用した効果的な情報発信  <b>【成標】</b> 必要な情報発信→100%  <b>【活標】</b> 遠足・体育祭・文化祭の前、回覧板への情報発信(年3回)  <b>【成標】</b> 発信率→100%</p> <p><b>【学校運営】</b> 学校関係者評価の改善提案を生かした学校づくりを行う。  <b>【活標】</b> 学校関係者評価委員から提出された改善提案を、次年度の教育活動の改善につなげる。  <b>【成標】</b> 改善提案に関連する改善事例→2件以上</p>	<p><b>【学校運営】</b>          HPを頻繁に更新するとともに、絆ネットを活用した効果的な情報発信の機会を増加させた。          コロナの影響により、外部からの参加を見送ったため、行事等の回覧板での発信はできなかった。</p> <p><b>【学校運営】</b>          評価委員からの指摘の継続した授業改善についてはICT活用による授業改善の機運を高めるとともに、高大連携の活用についてもスタートを切ることができた。          「桑北スタンダードの生徒版」については継続して取り組むとともに、生徒同士の関係性の向上のための取組も引き続き進めていく。</p>	

	<p><b>【学校運営】</b> 学校運営費の適正かつ効率的な運用に努める。</p> <p><b>【活標】</b>各学年・分掌の要求に基づき学校運営費を適正に配分するとともに、効率的な運用に努める。</p> <p><b>【成標】</b>教職員アンケート→満足度80%以上</p> <p><b>【学校運営】</b> 快適かつ安全・安心な教育環境の充実に取り組む。</p> <p><b>【活標】</b>危険箇所を中心に、学校施設・設備などの整備・点検・修繕を行うとともに、新型コロナウイルス感染症予防を徹底するなど教育環境の充実に努める。職員室の整理整頓・大掃除による機能性の充実。</p> <p><b>【成標】</b>教職員アンケート→満足度80%以上</p>	<p><b>【学校運営】</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、例年とは異なる予算の執行が求められるなか、予算の確保や適正な配分に努めるとともに、会計規則等に基づき適正な会計事務の執行に努めた。引き続き、限られた予算のなか、適正な予算配分と会計事務に努めたい。</p> <p>学校予算の配分等についての教職員のアンケート結果では、「満足」「やや満足」が88.9%という結果であった。</p> <p>生徒や教職員が安心して学校生活が送れるように施設や設備の改善に努めている。特に今年度は、空調機器整備・網戸設置・自動水栓化等の新型コロナウイルス感染症対策や、県教委が進める ICT 環境整備に取り組んだ。引き続き、限られた予算のなか、より快適な教育環境の充実に努めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修繕工事件数 19 件</li> <li>・整備工事件数 7 件</li> </ul> <p>学校施設等の整備・点検・修繕についての教職員のアンケート結果では、「満足」「やや満足」が88.9%という結果であった。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>学校休校期間中に職員室の整理整頓・大掃除による機能性の充実に図ることができた。</p>	
<p>重点④ 働き方改革の実効性の向上</p>	<p><b>【学校運営】</b> 総勤務時間の縮減を進めるため、時間外労働時間を遵守するとともに、計画的かつ組織的な学校運営に取り組むことにより、学校の働き方改革を推進する。</p> <p><b>【活標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 定時退校日の定時に退校できた教職員の割合 :80%以上</li> <li>② 計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 :100%</li> <li>③ 放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 :90%以上</li> <li>④ スクールサポートスタッフの有効的な活用</li> </ol> <p><b>【成標】</b>働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外労働時間</li> <li>①一人あたりの月平均時間外労働:28 時間以下</li> <li>②年 360 時間を超える時間外労働者数:0 人</li> <li>③月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数:0 人</li> <li>・休暇取得</li> <li>一人あたりの年間休暇取得日数→ 前年度比1日増加</li> </ul>	<p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総勤務時間の縮減</li> <li>① R 元年度 69%→R2 年度 59%(▲10%)</li> <li>② R 元年度 100%→R2 年度 100%</li> <li>③ R 元年度 87%→R2 年度 80%(▲7%)</li> <li>④ SSS (スクールサポートスタッフ) を 3 人配置し、教職員の負担軽減につなげることができた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外労働時間 (1 月末時点)</li> <li>①一人あたりの月平均時間外労働 : 28 時間以下 27.7H→13.9H (13.8H 減)</li> <li>②年 360 時間を超える時間外労働者数 2 人</li> <li>③月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 3 人</li> <li>・休暇取得</li> <li>一人あたりの年間休暇取得日数</li> <li>R 元年度 9.8 日→R2 年度 9.4 日 (▲0.4 日)</li> </ul> <p>引き続き、負担軽減、業務の見直しに努めたい。</p>	

改善課題

- ① **【安全・安心の学校づくり】**・・・コロナ対策を徹底し、引き続き安全・安心な学校づくりを推進していくとともに、学習環境の改善(エアコン・網戸・扇風機の設置等)を行い、より学びやすい環境づくりの創造に取り組みたい。自転車事故の防止等交通安全指導の徹底等をする。生徒の様々な思いや悩みを受け止め、適切に対応する力量を身に付ける研修機会の充実に努める。
- ② **【ICT 教育の標準化】**・・・ICT の推進強化のための「情報係」の設置により、ICT の活用による分かりやすい授業の実践、教室配備されたプロジェクターの活用などによる生徒参加型の授業の推進を図る。今年度休校時に実施したオンライン授業等コロナ禍における工夫と成果を教育活動全般にわたり展開していく。
- ③ **【働き方改革の推進】**・・・スクール・サポート・スタッフ(SSS)の引き続きの配置などにより、教員の総勤務時間の縮減を図り、生徒への還元に向けた工夫を行う必要がある。定時退校日の在り方を検討する必要がある。
- ④ **【学校の魅力発信のあり方の推進】**・・・生徒数の減少の中で、さらなる教育活動の魅力化、特色化を図り、生徒募集の増加につなげていくための広報活動が求められる。HP の刷新を行い、より見やすいもの、継続した情報の配信につとめる必要がある。
- ⑤ **【進路実現を取り巻く外部要因への対応】**・・・進学における新入試制度、就職における採用縮小傾向の中での進路実現を果たす体制づくりが求められている。

5 学校関係者評価

評価委員からの意見・提言

学校関係者評価委員会を令和3年2月24日(水)に開催し、以下のような提言を得ました。

**【安全・安心の学校づくり】**

- ・いじめ認知の件数について軽微なものでも積極的に認知して解決していこうという姿勢は継続された。
- ・コロナ禍での様々な対応に敬意を表したい。思うような活動ができない中、工夫した取組をなされた様子がよくわかりました。
- ・親として3年生の全員卒業をさせていただき感謝します。すごく楽しかったという声を聞きます。親としても人生の学び直しができました。
- ・不安定になりがちな生徒との個別面談、きめ細やかな学年部での情報共有がなされている様子がよくわかりました。

**【学力向上に関連して】**

- ・基礎力診断テストの表彰の仕組みなど、生徒の学習意欲を高めるものとして引き続き継続されたい。
- ・進学実績の成果があったカレッジクラスについて低学年時からのモチベーション維持を工夫されたい。
- ・探究活動で取り組まれているSDGsについては、企業や幼稚園等でもまさに喫緊の課題となっている重要なテーマであるが、現在2学年や1学年で取り組まれている、学校と地域、事業所との共通言語としてのSDGsを核にした取組は非常に素晴らしく、今後も継続して取り組まれたい。
- ・「先輩講話」に講師を派遣している事業所として、その効果が大変気になるが、事業所にとっても職員育成の貴重な機会であり、目的やねらいを学校と共有しながら引き続き継続されたい。
- ・中学校でも「キャリアノートくわな」の取組が始まりました。昨年は、職場体験学習ができなかったり、今までのキャリア教育を見直す試行錯誤の1年となり、思うように活動ができませんでしたが、小中の取組が高校へと引き継がれる枠組みもできたので、今後の連携を深めていきたいと思いました。

**【ICT 教育の展開について】**

- ・グーグルクラスルームを活用したICT関連の取組を生徒のICT環境を踏まえてきめ細かく展開されたことをさらに発展させて取り組まれたい。
- ・ICTの活用について、今後、中学校でも実際に運用を始めることとなるので参考にしたいです。

**【働き方改革について】**

- ・働き方改革の中、会議時間の削減はあるものの先生方がそのことで円滑なコミュニケーションが図れていることはよい。SSSなどに加えて「学校ボランティア」などの仕組みも検討いただけたらどうか。
- ・消毒の実施、密の解消など、例年よりも業務が増えたり、工夫を求められることが増えています。今までやっていなかったことをやらなければならないことも増えていますが、なんとか先生方が元気に働けるよう、勤務時間過多とならないような工夫を外部に向けても要望していけたらいいなと思いました。
- ・先生方自身が「先生であることを楽しんでいる」姿が印象的であり、そんな大人になりたと子どもたちも思うのではないかと思います。

**【その他】**

- ・登下校時及び校外活動時において地域住民との接点が多いと思います。校内同様、校外活動の指導にも引き続き尽力ください。

明らかになった改善課題と次への取組方向